

Letters

レターズ / 会員の皆さんから寄せられたお便りをご紹介します。

東京都江戸川区 フルムーンさん

9月で主人の3回目の命日がきます。8カ月だった娘も3歳を超え、毎日元気に保育園に通っています。保育園には送り迎えにパパもたくさんやってきます。パパのお迎えは子供にとってうれしいようでクラスの子が「今日はパパがお迎えにくるんだ」と私にもニコニコと教えてくれます。

日中も子供同士で同じ話題が出るのでしょうか。帰り、自転車の後ろの席から娘が「ススムは天国だからあたしのお迎えはないよね」と言ってくる事があります。ただ事実を伝えてきているのか、さびしさから話してきているのか、わかりませんが、どうか彼女の小さな心が痛んだりしませんように、と祈るばかりです。やっぱり彼女も毎日さびしいのでしょうか。

奈良県北葛城郡 M・Kさん

妻が亡くなって12年経ちました。8歳と4歳の娘も大学2年生と高校2年生になりました。長女は今年の成人式には母親の晴れ着を着て出席しました。次女も母親の晴れ着を着て成人式に出席すると言われてきました。亡くなった妻も大変喜んでいてと思います。当時、次女は幼稚園から保育所へ変わることがわからず、近所の人や、いろいろな人たちのおかげで、保育所に行くようになりました。また、長女は学童保育所から1人で家に帰るのを怖がり、先生方にお世話になり、早く仕事を終えて迎えに行きました。

この12年間は、たくさんの人のおかげでここまでやってこれたと思っています。今は、人のお世話をするのを生きがいとしています。また、交通安全運動や子供の見守り活動も積極的に行っています。スマイルズ・基金だよりを楽しみの1つとさせていただいています。これからもこれまでどおり、皆様のためになることを期待しています。

栃木県小山市 Y・Mさん

基金に加入して1年4ヶ月、スマイルズは私の心の支えとなっています。特にレターズを読ませていただくと、小さいお子さんを残して事故に遭われた方が多いことを知り、残された家族の方の頑張る姿に、いつまでも嘆き悲しんでいる場合ではないと思い知らされます。夏号のスマイルトークの、鎌仲ひとみさんの「十代の私へ」のメッセージはとても感慨深く私の心に入ってきました。

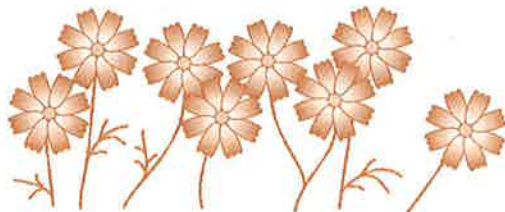
「自分の中だけ見つめていると息が詰まっちゃうよ。もっといろんな人を見て、他の人がどう生きて何を考えているかを見つめてみよう。」

この文面は今の自分にぴったりのアドバイスと受け止めています。主人が亡くなり環境ががらっと変わりこの現実を受け止めきれず息が詰まる位自分の中しか見ていなかった事に気付かされました。もっと視野を広げより良く生きて行けるようにプラス思考に持って行かなければと考えさせられました。

匿名希望さん

いつも、交通遺児育成基金にはお世話になっております。

主人が亡くなり、1年が過ぎました。子供達3人は元気に過ごしていますが、長男(8歳)は父との思い出が多い分、時々夜になると泣いています。次男(5歳)は春に小学校入学なので希望を胸に毎日を過ごしています。三男は3歳なので、まだ父のいない意味も知らず、ただ「大きくなったら死ぬの?」と聞いてきます。この子たちが父という存在のないまま「死」を身近に感じながら大人になるのに、一抹の不安を持っています。



大阪市大阪府

I・Mさん

先日、京都まで大好きな平井堅さんのKen's Barというライブに行ってきた。仕事の休みの日でないとなかなか行くことが出来ず、ずっとチャンスを待っていたのでチケットが当たった時は大喜びでした。ファンになってから5年、これまでのライブやCDなど聞くのが私のリフレッシュ法です。今回のライブも期待通り、素敵な歌声やトークなどで楽しませてもらい、本当に満足でした！ 歌詞の内容からは亡くなった主人の事を思い出させるような曲もあり、少し涙してしまいました。

2人の子供達も長女が中3、長男が小5と、ずいぶん楽になってきたので（他に心配事も増えましたが）久しぶりに自分の好きな事にひたり、自分の時間が持てて嬉しかったです。（子供達に晩ごはんを食べさせてくれた姉夫婦、両親に感謝です）

茨城県土浦市

M・Kさん

早いもので主人が亡くなり、10年が経ちました。当時長男は小学4年生、下の双子は2年生になったばかりでした。私が高槻で足の手術をし、退院する時に事故に遭い、迎えに来てくれた実父と主人は亡くなり、私は奇跡的に助かりました。その時は主人が、子供達のために、私をおいて逝ったのだなと思いました。それからは必死で子供を育ててきました。でも今、振り返ると、子供達がいたから私は生きてこられたように思います。

また、育成基金の方々からの暖かいお心遣いや、同じ会員の方々との交流により、月日と共に事実を受け入れ、前向きに考えられるようになりました。子供達もそれぞれの道を歩み始めています。私も、これからは子供に心配をかけないよう、心身共に健康に気をつけていきたいと思えます。



新潟県新潟市

M・Uさん

今年、娘が中学に入学しました。子供の姿を見ながら、あの事故当時のことを思い出しました。娘は当時生後10ヶ月、私は外国出身、日本には親戚もいないので、これからどう子供を育てていいか、不安でいっぱいになりました。介護の仕事をしながら、内職の仕事もしました。数えきれない涙が出ました。つらいことがたくさんありましたが、子供の為に誰にも負けずに頑張ってきました。

この度、橋本給付金を頂き、とてもうれしいです。文具品を買いました。大事に使用して、一生懸命勉強させたいです。心から感謝の言葉を申し上げます。

北海道札幌市

T・Cさん

主人を亡くしてから4年になります。当時はお正月や誕生日、季節の行事などいるべきはずの人がいない事に私も子供も現実を受け止めずに心を痛めていました。最近は遺されたものだけの生活にも少しずつですが慣れて落ち着きを取り戻して前に進めています。娘も部活動を頑張り、家のお手伝いもしてくれて助かっています。毎回、親子でスマイルズを楽しみにしています。ありがとうございます。

【基金事務局より】

いつも基金へのお便り、ありがとうございます。今年の夏はとても暑かったですね！ 秋になり、夏の疲れがでてきたころではないでしょうか？ たくさん食べて寝て、体調管理には気をつけてくださいね。

基金の事務所の前の道はいちょう並木なのですが、そろそろ紅葉を始め、あとひと月もたつと、金色の葉がはらはら落ちて、さぞきれいなことと思います。みなさんも、きれいな落葉を拾って、押し葉にしたり、しおりとして本に挟んだり、楽しんでみてはいかがでしょうか？